

- ◎小学生の鋳物見学累計9万人超え 2面
- ◎鋳物生産、12月は軒並み前年割れ 3面
- ◎彩の国アリーナに組合員3社出展 3面
- ◎川口舞台の「車線変更」撮影終了 4面
- ◎鋳金工芸研、鋳物実習場お別れ会 4面

# KAWAGUCHI FOUNDRY NEWS

## 川口鋳物ニュース

編集兼発行人 総務委員会  
 発行所  
 川口市元郷2-1-3  
 川口鋳物工業協同組合  
 電話(川口) 048(224)6200番(代表)  
 F A X 048-224-1536番  
 ◎ホームページ・メールアドレス  
<http://www.kawaguchi-imon.jp>  
[kumiai@kawaguchi-imon.jp](mailto:kumiai@kawaguchi-imon.jp)

組合員の2018年度鋳造カレッジ修了者		
コース	氏名	社名
鋳鉄	遠藤 正也	川口内燃機鋳造(株)
	池澤 雄一	(株)マスセイ
	チャン・クオック・トアン	伊藤鉄工(株)
	鎌田 学	マテックエンジニアリング(株)
軽合金	横田 洋明	(株)田島軽金属
	松本 貴昭	(株)田島軽金属

注=川口鋳物工業協同組合の会員企業から鋳造カレッジ関東地区への参加者(敬称略)



グループに分かれての討議

日本鋳造協会は2月9日、2018年度の「鋳造カレッジ」関東地区の修了式を群馬県太田市内のホテルで開いた。同地区では18年度に鋳鉄・軽合金の2コースを開講。川口鋳物工業協同組合の会員企業5社の6人を含む受講者24人全員に修了証書が授与された。

受講者の内訳は鋳鉄コースが20人、軽合金コースが4人。川口鋳物組合の会員企業からは鋳鉄に4人、軽合金に2人が参加した。

一行は2月8日、9日の2泊2日で締めくくりとなる研修を実施。初日に日立金属(株)真岡工場(栃木県真岡市)と木村鋳造所の群馬工場(群馬県太田市・群馬FM工場(同伊勢崎市)の

### 鋳造カレッジ関東地区 組合員5社6人修了

## 鋳造カレッジ上級コース 組合員2社2人が修了



これからも勉強を...と伊藤会長

日本鋳造協会は2月16日、2018年度の「鋳造カレッジ上級コース」の修了式を東京都港区芝公園の機械振興会館で開催した。川口鋳物工業協同組合の会員企業である伊藤鉄工(株)の来栖直樹氏、(株)マッセイの池田武士氏の2人を含む14社16人の受講者全員が、1年間の課程を無事修了した。いずれも審査を経て、5月24日に開かれる同協会の総会後に、「上級鋳造技士」に認定される見込みだ。

上級コースは、同協会の「鋳造カレッジ」を所定の成績で修了した「鋳造技士」や、概ね10年以上の実務経験者が対象。5年目の今年度は昨年6月7日に開

講し、木・金・土曜の2泊3日の講座を全国各地で計7回21日間にわたり実施した。テーマごとの講義やグループでの討議・発表、実験などを通じ、自社工場の課題を発見・解決できる人材を育成するのが目的だ。

修了式前の最後の講座では、「鋳造カレッジ上級コースを修了しての私の取り組み課題」と題した発表会を実施。受講者がそれぞれ自社の抱える問題点とその解決策について発表し、講師陣から質問や講評を受けた。

修了式の冒頭では伊藤光男会長が、日常の業務と並

## 鋳造業の発展に寄与を(伊藤会長)



来栖氏(右) 池田氏(右)

とともに、社員を参加させた各社の経営者に謝意を表明。皆さんは会社の次代を担う人材として大きな期待を受けて参加し、豊富な知見と経験を持った先生方と知り合いになった。今後はこの経験を生かし、先生と一緒に学んだ仲間とも連絡を取り合って、各社の発展に寄与していただきたい」とエールを送った。

また、中国の環境規制強化や、中国・タイ・台湾といった経済発展の進んだアジアの鋳造業が直面する人手不足などを挙げ、「これから数年間で素材材のものがつ

くは世界的に変わる」と指摘。日本の鋳造業に携わる方々は「3K職場」などと呼ばれても誇りを持って仕事をしているが、これからは自動化やIT、ロボットといった技術を駆使すれば日本の鋳造業はもっと面白くなる」との展望を示した。そのうえで、「世界は変化しているから、これからは勉強を重ねて日本の鋳造業の発展に資していただきたい」と述べた。

続いて講師代表の中江秀雄早稲田大学名誉教授が「日本は量産や安いものをつくるだけでは生きていけない。経験と知識を使ってゼロから解決方法を生み出し、新しいものをつくるということがあなた方の仕事」と受講者を鼓舞。オリシナリテイで勝負しながら、日本のものづくりを支えていくことに期待を表明した。

その後、伊藤会長から受講者に修了証が手渡された。最後に挨拶した上級コース委員会の米田博幸委員長は、同日それぞれが発表した取り組みについて「これで終わりではなく、日本鋳造協会や日本鋳造工学会などの場で成果を発表してほしい」と呼びかけた。

## 「働き方改革」準備を 組合 法改正に向け勉強会

川口鋳物工業協同組合は2月8日、「働き方改革関連法と求められる対応」と題した情報交換会を組合3階会議室で開いた。講師を務めた阪尾コンサルテイング事務所の社会保険労務士、

阪尾進氏は「鋳物業界はこれまで、特に人手の確保に苦しんできた。今回の『働き方改革』の法改正にしっかり対応しないと、これから人材確保がますます困難になり、経営を圧迫することになりかねない」と指摘。早急な準備に入るよう呼びかけた。

4月1日に施行される「働き方改革関連法」で



講師の阪尾氏

介で、講師には(株)コヤマ(長野市)の白田宏取締役を中心に43人が耳を傾けた。埼玉県鋳物技術委員会の鈴木克美委員長(ものづくり大学名誉教授)が冒頭で挨拶。白田氏が研削砥石とダイヤモンド工具、同社が開発した自動仕上げ装置のバリンダーについて説明した後、安田氏が鋳仕上げ工程の自動化による現場の改善事例を紹介した。

日本鋳造協会は2月9日、2018年度の「鋳造カレッジ」関東地区の修了式を群馬県太田市内のホテルで開いた。同地区では18年度に鋳鉄・軽合金の2コースを開講。川口鋳物工業協同組合の会員企業5社の6人を含む受講者24人全員に修了証書が授与された。

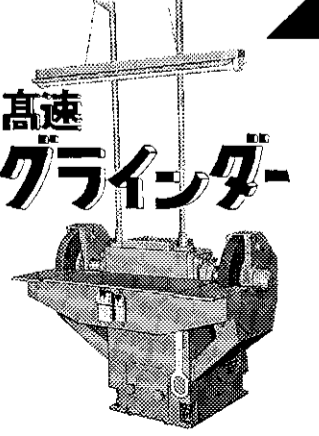
受講者の内訳は鋳鉄コースが20人、軽合金コースが4人。川口鋳物組合の会員企業からは鋳鉄に4人、軽合金に2人が参加した。

一行は2月8日、9日の2泊2日で締めくくりとなる研修を実施。初日に日立金属(株)真岡工場(栃木県真岡市)と木村鋳造所の群馬工場(群馬県太田市・群馬FM工場(同伊勢崎市)の

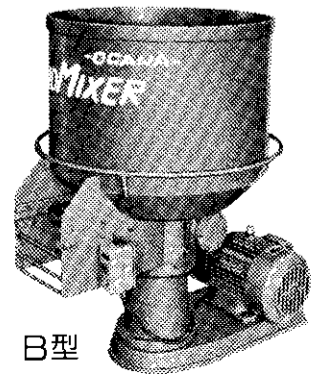
講習する白田氏(中央)

「働き方改革」準備を  
組合 法改正に向け勉強会

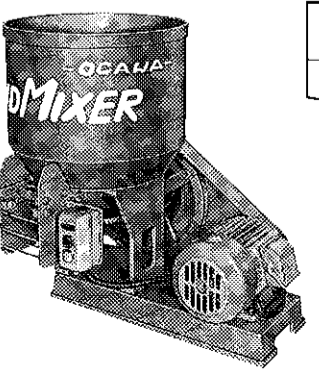
### 工数削減と人財確保に……即、偉力を発揮します。



**高速  
グラインダー**



**自硬性中子砂  
MIXER**



**MIXER**

新設・メンテナンス  
のご用命は

鋳機、鋳材店へ

オガワのサンドミキサー製造元  
高速グラインダー製造元

**小川金属株式会社**  
 本社/埼玉県川口市本町4-9-15  
 TEL 048-222-2903(代)  
 FAX 048-223-2117